

平成 29 年 8 月 10 日現在

機関番号：42413

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2013～2016

課題番号：25380831

研究課題名（和文）医療的ケアに対応できる介護福祉士教育プログラムの創設と実践

研究課題名（英文）Required medical care service techniques and knowledge for care workers

研究代表者

平澤 泰子 (ysuko, hirasawa)

浦和大学短期大学部・その他部局等・教授

研究者番号：60618867

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、新しい介護職へのニーズである喀痰吸引・経管栄養等の医療的ケアにおける介護福祉士の役割を明らかにし、既存の介護福祉士教育における到達度との乖離を把握し、医療的ケアに対応可能な求められる介護福祉士教育プログラムを創設し、その実践によりアウトカムを明らかにすることである。

医療的ケアに対応できる介護福祉士に求められる領域は基本的な領域であるヘルスアセスメントや医薬品を用いたケアなど7領域が抽出された。また、実習での学びは希薄であり実習での学びの体制づくりが急務であることが示唆された。ポートフォリオの実施では、学生が現在の自分を認識でき、将来の自分像を描くことができた。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to elucidate the role of certified care workers in medical care services in order to examine the differences between achievement goals and achievement outcomes present in existing education for certified care workers.

Seven categories were extracted for certified care workers to learn, in order to help them cope with medical care services. The categories included health assessment and care using pharmaceutical products, in addition to phlegm suction and tube feeding. Health assessment is essential for performing medical care services. It was suggested that the establishment of a system, by which students could thoroughly acquire knowledge and learn techniques through practices, was urgently required. After adopting the portfolio, students could recognize where they were now, and imagine where they will be in the future.

研究分野：介護福祉士教育

キーワード：医療的ケア フォリオ 介護福祉士養成課程 知識 技術 介護福祉士 教育プログラム 介護福祉実習 ポート

1. 研究開始当初の背景

1) 医療的ケア教育の必要性

2011(平成23)年6月22日、厚生労働省によって公布された「介護サービスの基盤強化のための介護保険法の一部を改正する法律」で、その業務内容に喀痰吸引等が追加された。それに伴い「社会福祉士及び介護福祉士法施行規則等の一部を改正する省令」によって、2年制の介護福祉士養成施設では2014年度から、大学教育課程の介護福祉士養成施設では2012年度から医療的ケアの教育を行うことが必要となった。医療的ケアの教育方法の確立は各養成校にとっても、重要課題となった。そのため、医療的ケアにおける介護福祉士の役割を明らかにして、既存の介護福祉士教育における到達度との乖離を明らかにすることは教育を実施する上では不可欠であり、医療的ケア介護福祉士教育プログラムを創設し、その実践によりアウトカムを明らかにすることが必要である。しかしながら、現段階においては、医療的ケアにおける介護福祉士の役割と介護福祉士の教育における到達度との乖離についてのアウトカムを明らかにした先行研究は見あたらない。医療的ケア介護福祉士教育プログラムを創設し、実施アウトカムを明らかにすることによって新たな取り組みが必要となった。

2) 介護福祉士の専門性の確立

今回の改正による医療的ケアにおける介護福祉士の役割と、既存の介護福祉士の教育における到達度との乖離を縮めるための医療的ケア介護福祉士教育プログラムを実施することで、リアリティーショックの低減に繋がり、さらには離職意向の低減に繋がると考える。現在、介護福祉士の給与の低さ、転職・離職率の高さは周知の通りであるが、小木曾ら(2010)の報告によると、「転職意向は、『職業に対する誇り』に関係していることが明らかになり、「高齢者ケア以外の仕事がしたい」という意向は、それぞれの『職業に対する誇り』が低い場合に生じるのであって、佐々木(2004)は「職種別の役割の曖昧さは職務満足度を低くする」と述べており、「専門職であることを意識し誇りをもちながら、介護老人保健施設で勤務することが転職意向を低減できる大きな要因であることが分かった」としている。本研究によって、医療ニーズに対応可能な求められる介護福祉士の役割を明らかにし、既存の介護福祉士教育における到達度との乖離を把握し、その乖離を縮めることは、介護福祉士としての専門性を確立するとともに、介護福祉士としての誇りを育て、介護福祉士の離職に歯止めをかけることに寄与できる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、新しい介護ニーズである喀痰吸引・経管栄養等の医療的ケア(以下 医療的ケア)における介護福祉士の役割

を明らかにし、既存の介護福祉士教育における到達度との乖離を把握し、医療的ケアに対応可能な求められる介護福祉士教育プログラムを創設し、その実践によりアウトカムを明らかにすることである。本研究の目的を達成するために、以下の研究目的で調査を行った。

- 1) 調査1-1は、医療的ケアにおける介護福祉士の役割を明らかにすることを目的とした。
- 2) 調査2は、医療的ケアにおける介護福祉士の役割を明らかにし、既存の介護福祉士教育における到達度との乖離を明らかにすることを目的とした。
- 3) 調査3は、調査1・2から得られた内容の分析から、デルファイ法を用いて医療的ケア介護福祉士教育プログラムを作成することを目的とした。なお、医療的ケアにおける知識や技術などの経時的にアウトカムの測定が実施できるように指標の作成やリフレクションシートを作成することを目的とした。
- 4) 調査4-1は、医療ニーズに対応できる介護福祉士教育プログラムを実施(1日目:質問紙調査)することを目的とした。
- 5) 調査4-2は、医療ニーズに対応できる介護福祉士教育プログラムを実施(1日目:インタビュー調査)することを目的とした。
- 6) 調査5-1は、医療ニーズに対応できる介護福祉士教育プログラムを実施(2日目:質問紙調査)することを目的とした。
- 7) 調査5-2は、医療ニーズに対応できる介護福祉士教育プログラムを実施(2日目:インタビュー調査)することを目的とした。
- 8) 調査6-1は、医療ニーズに対応できる介護福祉士教育プログラムを実施(2日目:質問紙調査)することを目的とした。
- 9) 調査6-2は、医療ニーズに対応できる介護福祉士教育プログラムを実施(2日目:インタビュー調査)することを目的とした。
- 10) 調査7-1は、医療ニーズに対応できる介護福祉士教育プログラムを検証(卒業時)することを目的とした。
- 11) 調査7-2は、医療ニーズに対応できる介護福祉士教育プログラムを検証(卒業6か月後)することを目的とした。

3. 研究の方法

- 1) 調査1は、介護療養型医療施設、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、抽出法とし、3年以上当該施設に勤務している介護福祉士2名と看護師2名(計約36名)に半構造化インタビュー調査し、医療的ケアにおける介護福祉士の役割を明らかにした。PASW Text Analysis for Surveysを用いて分析を行った。
- 2) 調査2は、介護福祉士養成施設協会に加盟している養成施設大学教育課程、短期大学課程、専門学校課程の当該施設における教務主任及びそれに類似する担当者各1名とし各3施設とし聞き取り調査および各養成施設のシラバス及び授業有意抽出し計画などとし

分析により、医療ニーズの種別に応じた教育内容と到達度を明らかにした。

3) 調査 3 は、介護福祉学分野の研究者 4 名、老年看護学分野の研究者 2 名に、聞き取り調査と各養成施設のシラバス及び授業計画で実施した。調査 1・2 から得られた内容から、既存の教育課程では不足している学習内容を明らかし、「医療的ケア介護福祉士教育プログラム」を創設した。分析から、デルファイ法を用いて医療的ケア介護福祉士教育プログラムを作成することを目的とした。また、2 年間の介護福祉士養成課程を想定した教育プログラムとし、実習における医療的ケアにおける学びの経過をリフレクションできるようポートフォリオの手法の具体的方法を考案した。

4) 調査 4-1 は、介護福祉士養成協会に加盟している養成施設とし、大学教育課程、短期大学課程、専門学校課程のうちの複数の施設とし、有意抽出し、第 1 段階実習を修了した学生（定員 100 名）とした。「医療的ケア介護福祉士教育プログラム」を用いた質問紙調査」を使用し、SPSS.20J を用いて多変量解析などを行った。

5) 調査 4-2 は、調査 4-1 と同じ養成校の 1 養成校の第 1 段階実習を修了した学生 10 名とした。記述調査及び半構造化インタビュー調査及びポートフォリオを行い「医療的ケア介護福祉士教育プログラム」の到達度を明らかにした。

6) 調査 5-1 は、調査 4-1 と同じ養成校の第 2 段階実習を修了した学生（定員 100 名）とした。「医療的ケア介護福祉士教育プログラム」を用いた質問紙調査を用いた。SPSS.20J を用いて多変量解析などを行った。

7) 調査 5-2 は、調査 4-1 と同じ養成校の 2 段階実習を修了した学生 10 名とした。記述調査及び半構造化インタビュー調査及びポートフォリオを実施し、内容分析により、「医療的ケア介護福祉士教育プログラム」の到達度を明らかにした。

8) 調査 6-1 は、調査 4-1 と同じ養成校の第 3 段階実習を修了した学生（定員 100 名）とした。「医療的ケア介護福祉士教育プログラム」を用いた質問紙調査した。SPSS.20J を用いて多変量解析を行った。

9) 調査 6-2 は、調査 4-1 と同じ養成校の 3 段階実習を修了した学生 10 名とした。記述調査及び半構造化インタビュー調査及びポートフォリオ実施し、内容分析により、「医療的ケア介護福祉士教育プログラム」の到達度を明らかにした。

10) 調査 7-1 は、調査 4-1 と同じ養成校及び介護福祉養成校 383 校（平成 23 年現在）の悉皆とした。平成 27 年度卒業生であり、介護職として勤務予定の者（定員数で 19、908 名を対象とした。「医療的ケア介護福祉士教育プログラム」を用いた集合式質問紙調査を行い、SPSS.20J を用いて、介護福

祉教育プログラムの効果による差異を検証した。

11) 調査 7-2 は、調査 7-1 と同じ養成校卒業生で、介護職として勤務している者の悉皆調査を行った。SPSS.20J を用いて、教育プログラム・職務満足度・離職・転職意向の関連を検証した。

4. 研究成果

1) 調査 1 では、介護療養型医療施設、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、抽出法とし、3 年以上当該施設に勤務している介護福祉士 2 名と看護師 2 名（計約 36 名）に半構造化インタビュー調査し、介護福祉士の役割として医療的ケアにおける学ぶべきことは、〈ヘルスアセスメント〉、〈痰の吸引〉、〈経管栄養〉、〈医薬品を用いたケア〉、〈排泄を促す〉、〈身だしなみ〉、〈緊急時の対応〉の 7 領域が示された。

2) 調査 2 では、介護福祉士養成施設協会に加盟している養成施設大学教育課程、短期大学課程、専門学校課程の当該施設における教務主任及びそれに類似する担当者各 1 名とし各 3 施設とし聞き取り調査および各養成施設のシラバス及び授業については、医療的ケアの定義は、単に喀痰吸引や経管栄養だけでなく、大義に捉え、7 領域にわたることが明らかになった。シラバス上においては、調査時で、〈痰の吸引〉や〈経管栄養〉の教育は一部で実施しているが、感染・救急処置・薬物療法等は一部でしか行われていなかった。

3) 調査 3 では、介護福祉学の研究者 2 名、看護学の研究者 3 名、介護施設勤務者 3 名の計 8 名を対象として、3 段階のデルファイ法を実施し、調査 1・2 から得られた内容について意見収束を行い、7 領域それぞれの不足している内容、〈ヘルスアセスメント〉ではアセスメント力、〈痰の吸引〉や〈経管栄養〉では実践力、〈医薬品を用いたケア〉や〈排泄を促す〉では管理的な知識と技術、〈身だしなみ〉では皮膚損傷予防の知識と技術、〈緊急時の対応〉では転倒防止など多岐にわたる知識と技術が求められていることを明らかにし、『医療的ケアに対応できる介護福祉士養成プログラム』を創設した。

4) 調査 4-1 では、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会に加盟している、研究の同意を得られた短期大学 2 校と専門学校 2 校の学生 111 名に、介護福祉士養成課程における医療的ケアの修得状況と修得科目間の関係を明らかにすることを目的に悉皆調査を実施した。104 名を分析対象とした。7 領域の 44 項目の知識と技術 88 質問項目を使用した。その結果から、すべての質問項目間に相関関係がみられたことから、レディネスとしての知識を高めるとで、技術の向上ができることが明らかになった。また、実習での学びの状況と医療的ケアに対する知識と技術についてロジスティック回帰分析にてオッズ比を検討した。学び機会と〈ヘルスアセスメント

>知識はオッズ比が.787、<経管栄養>知識はオッズ比が 1.273、知識と<ヘルスアセスメント>知識はオッズ比が.727、知識と<経管栄養>知識はオッズ比が 1.283、技術と<ヘルスアセスメント>知識はオッズ比が.745となり、根拠をもってヘルスアセスメントでできる力を育み、医療的ケアの知識や技術を高める臨地指導のあり方に変化の必要性が示唆された。

5) 調査 4-2 では、調査 4-1 と同養成校の 1 校の第 1 段階実習修了した学生 9 名を対象として記述と半構造化インタビューをポートフォリオの活用で実施した。学生は、日常生活全体に援助が必要な利用者や意思疎通が難しい利用者との関わりについて、ケアする側の関わり方や家族の力によって、その人が変化していくことが実感できた。また、学生は次の実習の課題を明確にすることができた。

6) 調査 5-1 では、研究の同意を得られた短期大学 2 校と専門学校 2 校の、第 2 段階実習を修了した 85 名を分析対象とした。学生の実習に対する向き合い方 5 質問項目のうち、最も多かったのは「安全に配慮してケアできましたか」、「利用者の尊厳を大切にケアできましたか」であった。最も少なかったのは「事前学習を充分することができましたか」であり、<ヘルスアセスメント>領域に強い関係が示された。「自己課題を明確にできましたか」は知識と技術との関係がみられず、事前学習と課題の明確化の必要性が示された。

7) 調査 5-2 では、調査 4-2 と同じ 10 名で、第 2 段階実習を修了した 9 名を分析対象とした。多くの学生が「自分像」に対して、第 1 段階よりも積極的に取り組んでいる自分、少し自信をもってできた自分、客観的に介護者や自分を観察できるようになった自分を認識していた。

8) 調査 6-1 では、調査 4-1 と同じ養成校の研究の同意を得られた短期大学 2 校と専門学校 2 校のすべての実習を修了した学生 111 名に、医療的ケアを学ぶ機会があった学生の特徴を明らかにすることを目的として調査を実施した。102 名を分析対象とした。医療的ケアを学ぶ機会の状況の差異を検証するために、Mann-Whitney U 検定及び Spearman による相関係数などを用いた。医療的ケアを学ぶ機会があった学生は、医療的ケアの知識<排泄を促すケア>、<身だしなみを整えるケア>、<緊急時の対応>領域において U 検定 5% 水準で差異がみられた。一方、技術ではすべての領域に差異がみられ、U 検定 1% 水準で差異がみられたのは、<経管栄養>、<排泄を促すケア>、<身だしなみを整えるケア>、<緊急時の対応>領域であった。学ぶ状況ではすべての項目間で Spearman にて 1% 水準で強い相関を示した。学生は学ぶ機会があったことによって、知識よりも技術の習得度が高くなることが示され、知識と技術の双方の習熟度を向上させるためには、学生の主体性や能動性を引き出すことができる教育

が求められることが示唆された。

9) 調査 6-2 では、調査 4-2 と同じ 10 名で、第 3 段階実習であるすべての実習を修了した 9 名を分析対象とした。ポートフォリオを活用して実習の振り返りとして「自分自身の変化」に焦点を当てた。その結果、「自分像を知る」、「ポートフォリオによって」、「将来の自分像を考える」の 3 領域が示された。「自分像を知る」では、介護に対する思い、利用者に対する向き合い方、多面的に考えることができるようになったなど自分のなかでの変化を知ることができた。また、学生間の相互作用や実習が変えたと変化の要因も認識していた。「ポートフォリオによって」では、自分を客観的にみつめる機会であった、表現が自由になる、ポートフォリオによって考えを深められたと向き合うことによって得られる学びやポートフォリオの意義を感じていた。自己を肯定しながら、職場を決めた、夢がもてた、国の方針や将来への心構えなど将来のことを考えるなど「将来の自分像を考える」ことに繋がっていた。ポートフォリオの必要性を示した。

10) 調査 7-1 では、調査 4-1 と同養成校及び 2015 年現在、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会の加盟しているすべての養成校 375 校とし、同意の得られた 52 校（4 年課程の大学 6 校、3 年制の専門学校 3 校、2 年課程の短期大学 9 校、専門学校 32 校、1 年課程の短期大学の専攻科 2 校）の、すべての介護福祉士養成課程を修了し卒業する学生を対象に、医療的ケアの知識と技術の到達度を明らかにすることを目的として調査を実施した。質問紙を 1,196 名に配付し、1,028 名の有効回答を得た。分析は単純集計、中央値の差は Kruskal-Wallis 検定、相関関係は Spearman を用いた。[養成校での学び]および [実習での学び]における[7 領域医療的ケア]の知識では、[養成校での学び]では差異が多かったが、[実習での学び]では差異が少なかった。[養成校での学び]および [実習での学び]における[7 領域医療的ケア]の技術においても同様な傾向がみられた。[不安]と[7 領域医療的ケア]では、知識および技術ともに多くの領域に強い相関を示した。養成校と実習施設が連携し、相乗効果を生む実習体制づくりの必要性が示唆される。

11) 調査 7-2 では、調査 7-1 と同じ養成校卒業生で、介護職として勤務して 6 か月を経過している人に、職場における仕事へのサポートと職務満足度を明らかにするために悉皆調査を実施した。同意を得られ、回答が得られた 49 名を分析対象とした。現在の勤務先は介護老人福祉施設が 16 名（32.7%）と最も多く、介護老人保健施設 7 名（14.3%）、障害者施設 7 名（14.3%）と続いた。上司からのサポートは「いつも助言が得られる」21 名（42.9%）、「やや助言が得られる」21 名（42.9%）であった。また、同僚からのサポートは、「いつも助言が得られる」23 名

(46.9%)、「やや助言が得られる」16名(32.7%)であった。ほぼ8割がサポートを得られていると答えている。さらに、職務満足度においても、同僚からのサポートは介護職版職務満足度評価尺度の多くの項目に相関を示した。

12) 以上の研究成果を1冊の書籍「介護職のための医療的ケアの知識と技術-ポートフォリオを活用して自らの成長を育む-」としてまとめた。第1章~4章までを、「介護に求められる医療的ケア」、「介護に必要な医療的ケアの実践(7領域医療的ケアの実践方法)」、「介護を学ぶ学生のためのポートフォリオ」、「介護現場のスタッフのためのポートフォリオ」とした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 16件)

平澤 泰子、他、7領域医療的ケアのチェックリストによる卒業時の介護学生の学びの現状、愛知高齢者福祉研究会誌、査読有、No.3、2016、pp.32-48

平澤 泰子、他、医療的ケアを学ぶ機会があった介護福祉士養成課程の学生の特徴、福祉図書文献研究、査読有、No.15、2016、pp.65-72

平澤 泰子、他、ポートフォリオを用いた介護福祉実習の振り返りー「自分自身の変化」に着目してー、地域サイエンス、No.3、2016、pp.67-74

平澤 泰子、他、介護福祉士養成課程の学生の実習に対する向き合い方と医療的ケアの修得状況との関係、社会福祉科学研究、査読有、No.5、2016、pp.77-85

平澤 泰子、他、介護福祉士養成課程における医療的ケアの修得状況と修得科目間の関係 初めての实習に焦点をあてて、教育医学、査読有、61、2015 pp.206-216

〔学会発表〕(計 13件)

平澤 泰子、他、7領域医療的ケアのチェックリストによる卒業時の介護学生の学びの現状、第64回日本教育医学会大会、2016.

平澤 泰子、他、医療的ケアを学ぶ機会があった学生の特徴、第58回日本老年社会学会大会、2016.

平澤 泰子、他、初めての实習で一番こころに残ったこと インタビュー調査から、日・韓健康教育シンポジウム兼第63回日本教育医学会大会、2015.

平澤 泰子、他、介護福祉士養成課程における医療的ケアの知識と技術の習得の現状、初めての实習に焦点をあてて、第57回日本老年社会学会大会、2015.

平澤 泰子、他、介護福祉士養成課程における医療的ケアの学修状況、第62回日本教育医学会大会、2014.

〔図書〕(計 2件：内1冊は冊子)

① 平澤 泰子、他、医療的ケアに対応できる介護福祉士教育プログラムの創設と実践 教育プログラム、浦和大学短期大学部平澤研究室、2015.

平澤泰子、他、介護職のための医療的ケアの知識と技術 ポートフォリオを活用して自らの成長を育むー、学文社、2016.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平澤 泰子、(HIRASAWA、Yasuko)
浦和大学短期大学部・介護福祉科 教授
研究者番号：60618867

(2) 研究分担者

小木曾 加奈子 (OGISO、Kanakano)
岐阜大学・医学部看護学科 准教授
研究者番号：40465860

(3) 連携研究者

・安藤 邑恵 (ANDO、Satoe)
奈良学園大学・保健医療学部看護学科
教授
研究者番号：80290039

・今井 七重 (IMAI、Nanae)
中部学院大学・看護リハビリテーション学部看護学科 教授
研究者番号：80435289

・佐藤 八千子 (SATO、Yachiko)
岐阜経済大学・地域経済研究所
特別研究員
研究者番号：90342055

・祢宜 佐統美 (NEGI、Satomi)
愛知文教女子短期大学・児童教育学科
准教授
研究者番号：30643522

・山下 科子 (YAMACHITA、Shinako)
中部学院大学・人間福祉学部人間福祉学科
講師
研究者番号：00739774

(4) 研究協力者

・阿部 隆春 (ABE、Takaharu)
東京都福祉保健局

・真木 明子 (MAKI、Akiko)
元田辺製薬株式会社